

貴重なガラス写真原板復元 備前で「三石美術館」

100年前の街“再発見”

3日間限定の「三石写真美術館」(Mプロジェクト協議会主催)が15日まで、備前市三石の三石運動公園体育館で開かれ、100年前の三石

地区の街並みや住民の暮らしぶりを撮影した貴重なガラス写真原板が展示されている。



100年前の三石地区を写したガラス写真原板に見入る来場者

画像を復元できた原板のうち五十二点をプリントしてパネルに掲示。ネガ状態の原板自体も蛍光灯で透かして見られるようにした。深谷滝で水泳をする子どもたちの姿や、一八九一年に建築された山陽鉄道(現JR山陽本線)のれんが積みア

ーチ橋「四列穴門」の完成時に撮影したらしい遠景写真などがあり、地元や岡山市などから訪れた人たちが興味深そうに見入っている。備前市三石、石井正和さん(左)は「滝の写真などは今もイメージが残っている。原板が残ってい

アーチ橋や
深谷滝撮影
52点パネルに

たこと自体が驚異だと思

う」と話していた。ほかに、住民たちから提供された明治から昭和の三石地区の写真二百八十点、岡上空襲のパネル写真二十点などを展示している。

「Mプロジェクト協議会」は、見慣れた街並みの歴史的価値を再発見しようという活動。ガラス原板は、三石郵便局長を務めた桜間運さん(一九八八年、八十三歳で死去)の親族から寄託された。昨年、三石公民館のロッカ―内から「再発見」し、デジタル化していた。開場時間は午前十時から午後四時まで。

(池本正人)